

KOCA NEWS

2023年8月号

Long beach in Republic of Palau, photographed by Saori Ishida (2022-1/elementary school education)

目次

- | | |
|--------------------------------------------|----------------------------|
| 02 総会報告 / JICA海外協力隊2023 春募集 | 08 JICA国際協力エッセイコンテスト2022結果 |
| 03 京都デスク任期満了のご挨拶 /
京都デスク新任のご挨拶 | 09-10 JICA海外協力隊 活動報告 |
| 04-05 2022年度4次隊の表敬訪問・壮行会 | 11 連載 青年海外協力隊員 現地レポート |
| 06 国際交流カフェ | 12 連載 VIVA COLOMBIA |
| 07 持続可能な社会について学び語る学習会 /
JOCA評議員会と総会レポート | 13 連載 読書を通して、ヒーローになれる |
| | 14-15 連載 谷口英明さん×小説 |
| | 16 行事予定のお知らせ / 会員登録のご案内 |

京都海外協力協会(KOCA)は、京都府在住のJICA国際協力ボランティア事業への参加経験者を中心とした組織で、国際協力活動で得た貴重な体験を生かして、異文化理解の促進、地域の国際化と国際理解のために様々な活動を展開しています。

総会報告

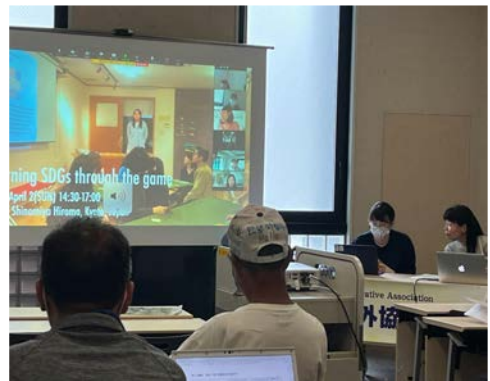
令和5年度の通常総会は、令和5年5月14日（日）午後2時～3時15分、京都駅前のキャンパスプラザで、オンラインとのハイブリッドで開催しました。午後2時定刻に開催され、亀村会長が議長に選任されました。

議案の審議に先立って、令和4年度事業の写真がスライド上映されました。

総会では、令和4年度事業報告と決算、令和5年度の事業計画と予算、定款の変更を審議し、全ての議案が全員一致で承認されました。

総会終了後、新入会員とオンライン参加者から近況報告を行いました。

新型コロナウイルスにより活動が停滞していましたが、今後は、感染拡大に配慮しつつ、活動の充実に努めていきたいと思っておりますので、会員皆様の益々のご支援とご協力をお願いします。



JICA海外協力隊2023 春募集

5月19日から7月3日までのJICA海外協力隊春募集期間に、京都市内3カ所で募集説明会が行われました。6月18日の説明会では、サモアで理学療法士として活動したOBから、サモアの自然の美しさや、人口19万人の島では、みんなが親戚のように暮らしているという話、小児ケアから高齢者ケアへと関心が広がるなど、活動を経て自らが感じた変化などが語られ、参加者は興味深く耳を澄ませていました。その後、協力隊経験者と参加者が車座になって話し、終了時間になっても話が尽きませんでした。

春募集説明会ではKOCAの活動を紹介させていただいたほか、昨年の協力隊ナビに参加していた大学生と再会するという、人のつながりを感じる場面もありました。（亀村）

5/31(水)19:00-21:00 @キャンパスプラザ京都

6/3(土)14:00-16:00 @京都経済センター

6/18(日)14:00-16:00 @京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）

京都デスク任期満了のご挨拶

KOCAの皆様

こんにちは。「もと」京都デスクの畑中遥です。

皆様の温かいサポートのおかげで、2021年3月～23年3月までのまる2年間を走り切ることができました。パンデミックの影響も色濃い中でしたが、説明会や各種イベント、協力隊の送り出しなど、皆様との思い出は楽しいものばかりです！非常に素敵な方々と出会い、様々な知識とご経験を共有していただいたことで、私自身いろいろな学びと発見がありました。

退職後にご縁あって、新潟県南魚沼市にある「国際大学」に進学しました。「国際社会起業家プログラム」という、大学とJICAとの連携により2020年に新設された修士課程で、国際色豊かな環境の中（学生の8～9割は世界中からの留学生です）勉強しています！大学院の実習も兼ね、今年夏からJICA海外協力隊（短期：8ヶ月）として南米・パラグアイに派遣されることになったので、現地からの中継など、日本と繋げる活動やKOCAと協働のイベントも楽しみにしています。皆様、2年間本当にお世話になりました。そしてこれからも、よろしくお願いします！



国際大学のグラウンド前にて

：ベトナム人の友人に借りたアオザイを着て、ナイジェリア人の友人と「どや」ポーズ！

京都デスク就任のご挨拶

メマオアーチ！2023年4月より京都デスクと担当しています。西川 玲奈と申します。京都に生まれ育ち、山梨県で養護教諭（保健室の先生）として働いたのち、青年海外協力隊としてガーナに派遣されました。ガーナは学校保健分野に力を入れていて、ガーナにも保健室の概念が少しずつ広がってきています。私は残念ながら、コロナの影響で任期短縮となり、すぐに帰国となりました。2年間全うできなかった後ろめたさのようなものを背負いながらも、社会に貢献し、誰かの役に立ちたいと感じ、経験と免許を活かし、学校現場に戻ることにしました。しかし、学校教育と国際協力の両方を経験した私は、国際協力にもっと携わりたいと思いがあり、国内で国際協力のサポートができるJICA京都デスクを選びました。



京都は古い歴史を残しつつも、新しいものも融合させて、新しい文化を作り続けている魅力あふれるまちです。「日本といえば京都！」と海外からの知名度も高いここ京都で府民のみなさまには【国際協力】を身近なものとして感じていただきたいと思っています。一緒に京都の国際協力を盛り上げていきましょう。



2022年度 4次隊 表敬訪問 壮行会

3月14日（火）に京都府庁を表敬訪問し、畑中さんと笹廣さんが同席しました。西脇知事から激励の言葉をもらい、KBS京都テレビの取材も受けました。

その後、Cozy café kyotoにて壮行会を開きました。荒木さんの娘さんとJOCA大阪の榎谷さんも参加し、チーズケーキやパンケーキを食べながら、出身地やこれまでの経験、任国のことについて和気あいあいと話しました。

3月24日（金）に行われた京都市表敬訪問には、出勤前に高橋さんも駆けつけてくれました。京都市長が出席されるのは数年ぶりだそうです。西村さんは5月7日、荒木さんは5月16日から2年間の活動が始まります。かけがえのない2年間、思いきり楽しく過ごせるよう願います！（亀村）



2022年度4次隊のみなさん、いってらっしゃい!

■名前：荒木馨
■派遣国：タイ
■職種：機械工学



① 応募したきっかけ

数年前、私の娘がJICA海外協力隊としてケニアに行っており、妻と私はケニアに会いに行きました。その時シニアの方が活動をしておられ、定年になったら応募しようと思いました。

② 訓練所での思い出

若い人に助けられて訓練を無事終わることができました。ありがとう！彼らは本当にエネルギーです。

③ 派遣に向けて今の気持ちを一言どうぞ
現地の人に「ぜひもっと長くいてほしい」と言われるような関係を作りたいです。



■名前：西村強志
■派遣国：ホンジュラス
■職種：環境教育



① 応募したきっかけ

異なる文化の中で生活してみたいと思っていました。どうせなら、目標や目的があった方が楽しいだろうと思い、応募しました。

② 訓練所での思い出

ダイエットです。応募から派遣まで2年以上あって、応募時から健康指導員に怒られるくらい太ってしまいました。訓練中はご飯の量を減らし、毎日運動をする生活で5kg以上痩せました(訓練終了後、少し戻りました)。

③ 派遣に向けての今の気持ちを一言でどうぞ
¡Inquieto!(不安)





国際交流カフェ



KOCAメンバーだけでなく様々な人と畑の手入れ、カフェ、ピザ作りを楽しみながら交流しました。

ドクダミは私の国で食べるので欲しいです。」とはカンボジアからの研修生。「人生で初めて野菜を植えました。」とはナイジェリアからの留学生の言葉。



収穫できた幸せの実が、また世界のどこかで花開くことを願います。（山崎）

ボウル一杯のトマトに焼き立てピザ、そして甘～いスイカ。お腹一杯で、夏の楽しい思い出はお持ち帰り。



国際交流カフェ

（開催場所はいずれもゲストハウス京都イン）

	開催日	参加人数（参加者の出身国）
プレ開催	4月23日	10名（ナイジェリア、ホンジュラス、日本）
1回目	5月28日	10名（キューバ、カンボジア、日本）
2回目	7月23日	13名（ウガンダ、タンザニア、ペルー、ホンジュラス、日本）

※開催時刻はいずれも14時前後から2時間程度
主にJICA研修生に参加を呼びかけた他、KOCAメンバー、協力隊に興味がある方を集め開催しました。

持続可能な社会について学び、語る学習会を開きました

4月2日（日）、SDGs学習会：Learn about SDGs through games（ゲームを通じてSDGsを学ぼう）を開催。ラオス元隊員のえみ Doyleさんと一緒に企画し、当日はえみさんと娘さんが参加者に持続可能な社会のためにできることは何かと問いかけ、ゲームの進行役を務めました。ホンジュラス、ナイジェリア、ラオスからの留学生と共に12人が共通語の英語でゲームに挑戦。カードによって示された個々の目標を達成しながらも、世界全体の経済、環境、社会の開発バランスを考慮してゲームをやってみると、「こんなゲーム展開は見たことありません」とえみさんが驚くほどのチームワークを発揮して持続可能な社会を描くことができました。ゲームを通じて、様々な知識、経験、関心を持つ一人一人が多様性を受け入れ、協力することの喜びを味わい、世界に目を向ける時間を持つことができました。

（亀村）



JOCA評議員会と総会レポート



6月17日（土）午後、令和5年度評議員会と第12回定時社員総会が行われ、会長として参加しました。Zoomとメタバースを併用して行われ、私は初めてゲームの駒のようになった自分が「メタバース」空間にできた各都道府県のOB会展示ブースを行き来するという体験しました。JOCAはメタバースの活用に力を入れていて、将来的には訓練所にいる訓練生や各国にいる派遣隊員、OBOGが同時に語らう場になりたいそうです。

KOCA理事の河合さんが、JOCA東北事業について「3年目となる今年は、地域の方々の日常生活を下支えし、住民自治に積極的に関わっていききたい」と説明していました。JOCA全体としても、JICAとの連携を続けながらも、自治体との「地方創生」をどんどん進めていこう、様々な地域活動団体と連携していきたいという方針を共有していました。私たちも、SDGsや多文化共生を踏まえて、他の団体と連携してやっていきたいなあと思います。その方が、アイデアも膨らみ、人とのつながりもでき、より良い社会を作っていけると思うからです。JOCA東北や大阪などの拠点施設での活動を聞き、京都にも拠点があつたらいいのになあと思いました。（亀村）



JICA国際協力エッセイコンテスト2022結果報告

本コンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施されています。

全国応募数は、中学生の部 19,832 点、高校生の部24,048点、合計43,880点となりました。厳正な審査を経て受賞者・受賞校が決定し、今年度の京都府関係の受賞作品は下記のとおりです。



中学生の部：（京都府）



国際協力特別賞

フォーク黒田レイモンド豪（同志社国際中学校3年）マイクロアグレッションを超えて



独立行政法人国際協力機構 関西センター所長賞

高瀬 ふう（京都先端科学大学附属中学校2年）世界に溢れんばかりの幸せを



佳作

中東 明花里（京都教育大学附属京都小中学校7年）祖父から学んだ大切なこと
合田 愛理（京都先端科学大学附属中学校 3年）違うコミュニティにいる友達



学校賞

京都先端科学大学附属中学校、龍谷大学付属平安中学校、
洛南高等学校附属中学校



高校生の部：（京都府）



独立行政法人国際協力機構 理事長賞

ンバ 真陽佳（同志社国際高等学校 2年）今できる国際交流～真の相互理解を目指して～



独立行政法人国際協力機構 関西センター所長賞

田中 日和（同志社女子高等学校 3年）バナナでSDGs



佳作

柏原 聡美（立命館高等学校 1年）あの子が残してくれたもの
福部 美来（京都府立北稜高等学校 1年）苦しいのはあなただけじゃない



京都青年海外協力協会会長賞

山本 優奈（京都府立北稜高等学校 1年）戦争と私たち



特別学校賞

平安女学院高等学校、立命館高等学校、京都先端科学大学附属高等学校
京都府立東宇治高等学校、京都府立北陵高等学校

「JICA海外協力隊活動報告」

Profile

名前 岩崎 広貴
隊次 2016年 4次隊
派遣国 タンザニア
職種 野球
現在の職業 商業科教師



1 協力隊に応募した理由は何でしたか。

高校野球監督をやっている時、ジンバブエ野球会を友人たちと立ち上げ、ジンバブエに野球場を建設するという計画をたてて実現に至ったのですが、その時に青年海外協力隊のOVたちと知り合うことになり、海外協力活動に興味を持つようになりました。ジンバブエの選手も自分の高校で練習させたりもしていました。いつかは、海外協力隊活動に参加しようと思い、教師定年退職後にシニア海外協力隊に応募しました。

2 現地での活動や日々の生活の様子を聞かせてください。

- ・住居はダルエスサラーム市内にあり、平日は市内及び近郊にあるセコンダリースクール（14歳～17歳の4年生学校）を巡回指導
- ・週末はタンザニア全土の10都市ほどのセコンダリースクールを巡回指導
- ・活動内容
ナショナルチームの創設・強化と普及活動
ナショナルチームの監督として
東京オリンピック予選東アフリカ大会に参戦
野球未開の都市を訪れて野球の普及活動
大学連携校である福岡教育大学野球部短期ボランティアのサポート
（ダルエスサラーム市内、郊外のセコンダリースクールや小学校での巡回指導のサポート）
- ・ダルエスサラームは大都会なので、なんでもそろっていたので衣・食・住には不自由しなかったです。
タンザニア人は日本人と気質が似ているので、違和感なく活動できたし、生活もできました。



▲タンザニア各地での野球教室の風景

3 活動や生活のなかで

・戸惑ったり、困ったりしたことはどんなことでしたか？

先にも書いたようにタンザニア人は日本人と気質が似ている（特に選手たちは自分が指導していた高校の選手たちと似ていた）ので活動や生活する上で戸惑ったりすることはなかったです。ただ、野球用具不足で困りました。練習に必要なボール、グローブ、バットなどの不足、これが悩みの種でした。グローブは交代で使うとか、バットの代わりに木棒を使うとか、ボールの代わりにペットボトルのフタを使うとか、色々工夫しながら練習しました。

・失敗や苦勞はどんなことがありましたか？

苦勞：上記の野球用具不足とナショナルチームの練習（ナショナルチームの練習をするためには、タンザニア全土から選手をダルエスサラームに集めてチーム練習をしなければならないのですが、タンザニア野球連盟は資金不足のため選手の交通費、宿泊費が出資できないため実現できず、仕方がないので全国巡回指導のとき、個別に練習テーマを与えてオリンピック予選に備えさせました。

失敗：オリンピック予選東アフリカ大会で負けて決勝リーグに進出できなかったこと。
（この一戦に勝てば決勝リーグ進出のケニヤ戦で12-14で敗戦）

・楽しかったこと、やりがいを感じたことはどのような事でしたか？

タンザニア選手たちの、ちょっとやんちゃで、しかしシャイなところが、自分が指導していた時の高校野球選手たちとそっくりだったので違和感がなく、非常にやりやすかった。本当に楽しそうに、そして一生懸命野球に取り組んでくれたので非常にやりがいを感じたことと、3年間でナショナルチームの選手たちが良き指導者に成長してくれたことにも、やりがいを感じました。（指導の仕方が僕にそっくりなのは笑えました。）



▲技術指導の風景

4 活動を通して得られたこと、あなたが変わったなと思うことはどのようなことですか？

語学：JICAの研修でスワヒリ語会話の訓練を受け、またタンザニアではスワヒリ語、英語を使うようになり、言語を理解することの重要性・利便性を経験したので、帰国後も引き続き、英語とスワヒリ語の学習をやっています。

価値観：「しあわせって何だろう？」これが、タンザニアで活動中も、帰国後も自分自身のテーマになっています。

タンザニア国内巡回指導中も田舎の村に行くことも、あったんですが、水道もなく毎朝井戸でたくさんの水を運ぶという重労働や、山奥に入って薪木にする木棒をたくさん伐採し、頭にのせて運ぶ女性や子供たちが、それでも楽しそうに働き生活している姿をよく見かけました。田舎だけではなく都会でも、日本に比べると物資不足、利便性も劣るのですが、タンザニアの人々の心豊かな生活ぶりをみるにつけ、この言葉が頭によぎりました。元々物資・金銭の豊かさだけが、しあわせの条件とは考えていみせませんでした。改めてそれを実感させられました。

5 協力隊の経験を今後の人生にどのように生かしたいですか？（仕事、趣味、地域での活動など）

もう一度、海外協力隊に応募したいと考えていたのですが、年齢制限があるので、それはかなわないので卒業生たちや若い人たちに協力隊経験の魅力を伝えていきたいと考えています。

今、また教師生活をしているのですが、幸せの価値観を生徒たちに投げかけていこうと思っています。（現状を打開するために、がんばるのか？現状を受け入れて、その中でやりがいを見つけていくのか？どちらが幸せなのか？）

これは、これからの自分自身が生きていくにおいての永遠のテーマでもあります。



ナショナルチームの選手達との写真▶



2021-3 ガーナ PCインストラクター 池田愛子さん

みなさん、ンドナミン(現地のエウエ語でこんにちは)。ガーナは、雨期と乾期の二期制で、現在は雨期の季節です。雨期は、断水の心配もなく、作物がよく育ちマンゴーが食べ放題の天国のような季節である一方、突然の大雨で道路が陥没し、道路整備から一日が始まることが多いのもこの季節です。

2回目の今回は、私が配属されている職業訓練校の紹介をしたいと思います。ガーナでは、中学校卒業後の進路として、高等学校と職業訓練校の選択肢があります。年齢は15歳~25歳前後と幅広く、私の学校には服飾・調理・建築・大工・電気・ICTの6コースがあります。私は、ここでICTコースの専門授業と全コース対象の基礎ICTのパソコン授業を教えています。

配属当初は、パソコン教室が工事中で半年以上使えず、座学で授業を教えていました。一コマ2時間の授業を拙い英語で、板書のみでパソコンを教えるのには、大変難しく、苦い記憶です(苦笑)。生徒が飽きないようにキーボードクイズを自作するなど、毎回の授業案作成に苦戦していました。昨年10月にパソコンルームが開放され、WordやExcelの授業だけではなく、日本の高校生とオンライン交流をしたり、お互いの生活を紹介するビデオを作ったりと少しずつですが、やりたかった活動が出来るようになってきました。

職業訓練校と言うと、スキル習得を目的とした実習授業がメインのイメージですが、農業の時間やスポーツの時間もあります。生徒たちはとても遅しく、私の家のファンの取り付けから停電時の電線の切り替え、ペンキ塗りにワードローブカバーまで彼らが作成してくれました。各コースのスキルはピカールの生徒たちなので、彼らが独自にお店を開店した際などにパソコンスキルがあることが強みになるようにこれからも楽しく学べる授業を作っていきたいです。



▲学校の風景

VIVA COLOMBIA

前号では、「語学」についてお話しさせていただきました。

今号では、語学を学ぶ際に、一緒に学んだことについてお話しさせていただきたいと思います。

私はいま、コロンビア共和国でスペイン語を学び、習得した経験から、通訳の仕事をしています。

語学を学ぶことにより、たくさんの可能性が自分の中にできたことをすごく誇らしく感じるのと同時に、自分の頑張りというものには後に生きてくるといことを身をもって学びました。

語学を学ぶことは、ただ単に英語や、スペイン語を学ぶこととは少し違うと思います。

その国の文化を知ること、生き方を知ること、歴史を知ること。

その部分も加えて語学を学ぶということだと思います。

語学を学んだ時、コロンビア共和国の歴史や宗教、文化についてとても勉強しました。

知識が増えたのはもちろんのこと、彼らのことが理解できるようになったことで、スペイン語能力は上がったと思います。

例えば、宗教の話がされた際、宗教について無知であった私は、スペイン語で話をされている内容が分からなかったことはもちろんではありますが、それ以上に日本語であれ理解できていなかったと思います。

話題に対しての知識がないと、スペイン語の意味が分かったところで理解はできません。

その意味で、彼らのことを知る。世界を知る。ということが、語学を取得する上で大切であり、必要なことだと学びました。

皆さんもぜひ、自分の学びたい言語ができた時、その国の人の文化や歴史、食べ物や宗教も学んでみてはいかがでしょうか？

新しい発見はもとより、語学力も格段とアップするはずです！！

私の仕事は通訳です。

言葉と言葉を繋ぐ仕事ではありますが、それと同時に心と心を繋ぐ役割も担っています。

ただ単に言葉を直訳するわけではなく、この言葉にはどんな思いが詰まっているのか、この言葉の裏にはどんな意味があるのか。

どのように相手に伝えれば、理解してもらえるのか。

そんなことを考えながら言葉を選びます。

通訳をするときだけでなく、日本語同士の会話でも、相手が何を伝えたいのかな。ということを常に意識して聞いています。

私が語学と共に学んだこと

みなさんの参考になれば幸いです。



エピソード3

留年3年目の引きこもり、ビブリアバトルをする（後編）

益井博史さんによる連載企画「読書を通して、ヒーローになれる。」第3回をお届けします。
益井さんがビブリアバトルに出会ってから現在に至るまでの活動、ビブリアバトルってどんなことをするのか？その魅力とは！
など、様々な視点からお伝えしていきます。
今回は、初めてビブリアバトルに出場することになった益井さんのお話です。果たしてちゃんとプレイできたのでしょうか…？



【自己紹介】

益井 博史（Masui Hirofumi）

- ・ 青年海外協力隊2015（H27）年度3次隊／青少年活動／ソロモン
- ・ 立命館大学情報理工学部創発システム研究室 客員研究員
- ・ 一般社団法人ビブリアバトル協会 職員
- ・ ビブリアバトル普及委員会 理事
- ・ 大学卒業後、まちづくり会社を経て青年海外協力隊に。帰国後、ビブリアバトル考案者の研究室で論文執筆や大会運営に携わる。
- ・ 著書『ソロモン諸島でビブリアバトル』（子どもの未来社）
- ・ 最近の趣味：サウナめぐり、ボードゲーム

（前回までのあらすじ）

留年3年目にして、ほぼ他人と会話しな生活を送っていた筆者。就職活動もろくにしないまま、大学図書館で開催されるビブリアバトルにエントリーしたが…？

20名近くだろうか。図書館職員さんが準備したと思われるイベントスペースのパイプ椅子には、すでに大勢が腰掛けている。今から、彼らに向けて本を紹介するのだ。

「バトラーの方は集まってください」

開始前に、改めてルールと進行方法が出場者に伝えられる。順番に5分間で持ってきた本を紹介し、2～3分の質疑応答の後、全員で「一番読みたくなった本」に投票する。シンプルなゲームなので、さすがに頭に入っている。どうやら出場するのは自分を含め4人らしい。なんとなく喋るのが得意そうだったり、凄まじい読書家のように見えてくる。くじの結果、3番目の発表になった。運が良いのだろうか。悪いのだろうか。

「主人公は、皆さんと同じくらいの年齢の大学1年生です」

ついにビブリアバトルが始まった。1人目のバトラーは、図書館の職員さんだった。唯一の学生以外の出場だ。今回設定されていたテーマの「夏」に合わせ、『夏のくじら』（大崎梢 著）を紹介していた。上手だし聞き取りやすい声だ。ただ自分の発表が控えていると思うと、プレッシャーで内容への理解が追いつかない。カウントダウンを刻むタイマー、こんなに進むの早かった？

順番は、すぐに回ってきた。

「よ、よろしくお願ひします」

うなずく観戦者の表情が見える。どうやら留年3年生の声でも、マイクは平等に拾ってくれるらしい。

「夏に食べておいしいものといえば、そう、焼き鳥ですよ。」

でも皆さん、実は鳥はある正体を隠しているんです」

ビブリアバトルにエントリーしてからの約1ヶ月、「どの本を紹介するか」が最初の難問だった。



「最近鶏の唐揚げを食べました？カラスを見かけました？それ、本当は…『恐竜』なんです」

テーマの「夏」に関係する本？「夏」に読むのに適している本？悩んだ末に選んだのは、「夏に関係してないけど好きな本」だった。

「僕が今日紹介するのは、ある鳥類学者が恐竜について解説した本です」

本が決まると、それをどう伝えるかを考えなければいけなかった。言いたいことを手帳に記し、黙読で時間調整した。当日手帳を読むわけにはいかないが、黙読を繰り返すうちに大まかな流れは覚えられた。あとは、聞こえるように話せるかどうかだ。

「今回のチャンプ本は…」

ビブリアバトルの最後に司会が読み上げたのは、僕が紹介した本のタイトルだった。（次回に続く）

今回の一冊：『鳥類学者 無謀にも恐竜を語る』（川上和人 著／技術評論社）

筆者が初めてのビブリアバトルで紹介し、チャンプ本に選ばれた本。「つまり鳥類学者とは、恐竜学者なのである！」と豪語する著者。いったいなぜ…？鳥と恐竜の不思議な関係、そして生物学のダイナミックさを笑いとともに楽しめる良書。

谷口英明さん × 小説 日々の生活の中で、京都を深掘りする ～「DIG into KYOTO」～

連載
企画

今回は、谷口さんの小説第1弾「Murmurな時間」について、インタビューしていきます！

〇「Murmurな時間」のあらすじを教えてください。

主人公の井上輝紀は3年前に仕事で京都にやって来た。「Murmur Coffee Kyoto」は輝紀のお気に入りのコーヒー店で、店主とも親しくしている。

ある日、輝紀は店を訪問して、いつもの席に座り、いつものブレンドを注文してコーヒーを楽しんでいた。窓の方に目をやると、窓の近くに一人の女性が一生懸命に本を読んでいる姿が目に入った。その本はカフェに置いてある本であり、女性は店主にその本を借りることができるか尋ねる。店主とその女性との会話で女性は昨日の夜遅くに仕事が終わってから東京から京都にやってきたことを輝紀は知る。店主と女性の会話の後、輝紀は店主から女性を紹介される。輝紀は3年前に自分は東京で仕事をしていて、今は京都で暮らしていることを女性に伝える。女性との会話でコーヒー店の周りにどこかいいところがあれば教えてほしいと尋ねられた輝紀は「渉成園」を薦め、翌日案内しましょうと提案する。

翌日、コーヒー店で待ち合わせをして、二人は「渉成園」に向かう。その途中で二人は初めて自己紹介を行いお互いの名前（女性の名前は村上早紀）を知る。「渉成園」に入って、園内を二人で散策し、ゆっくりとした時間を過ごす。その後、早紀は昨日借りていた本を返すためにコーヒー店に戻りたいことを輝紀に告げ、二人は高瀬川べりの道を歩いてコーヒー店に向かう。高瀬川べりの道で早紀はなぜ昨日京都にやってきたのか輝紀に話をする。

コーヒー店に戻ると、店主は早紀に声をかけ「渉成園」の印象を尋ねる。

二人はコーヒーを飲みながら、店の窓から高瀬川を見て、「渉成園」とコーヒー店の周囲の自然の豊かさについて語り合い、ひとときの時間を過ごす。

帰りの時間が迫ってきた早紀は、「渉成園」を案内してくれた輝紀にお礼を言った後、借りていた本を店主に返し、二人に別れを告げてコーヒー店を後にする。

残された輝紀は、東京に帰っていった早紀のことについて、店主と話をするのだった。

〇ストーリー誕生秘話を教えてください。

「Murmur Coffee Kyoto」の傍を通った時、感じのいいカフェがあるなあとしばらく気になっていました。しかし、すぐにそのお店に入る勇気？がなく、実際にお店を知ってから実際に利用するまで2か月かかりました。お店を利用してからは店主の方とよく話をするようになりました。お店の入口付近には本棚があり、何冊かの本が置いてありました。

実際にコーヒーを飲みながら、本棚の本を手にとって読まれている姿を何回か見かけました。今回の小説をつくるにあたって、店内に置いてある本を介在させて人と人がつながっていく様子をストーリーに盛り込みました。

〇書き上げまでにどのくらい期間がかかりましたか。

2か月です。

○作品を書く中での思い出を教えてください。

「Murmur Coffee Kyoto」の近くにある渉成園を1回目に訪れた時は「コロナ禍」だったこともあり、訪問者はほとんどいなくて、広大な庭園をゆっくり心ゆくまで楽しみました。街の中でありながら、鳥の鳴き声しか聞こえないその庭園の静けさに感動しました。

○作品の中でこだわりの部分を教えてください。

たった二日間、井上輝紀と村上早紀の二人が「Murmur Coffee Kyoto」で出会って、同じ時間を過ごした体験が、二人にとってその後どう影響を与えたのかを、一切描かなかったことで作品に「余白」のようなものが生まれたと思います。

○この作品をどのような人に読んでもらいたいですか。

どのような世代の方にも気軽に読んでいただけたらと思います。

○「Murmurな時間」を執筆する中で一番苦戦した、大変だったことは何ですか。

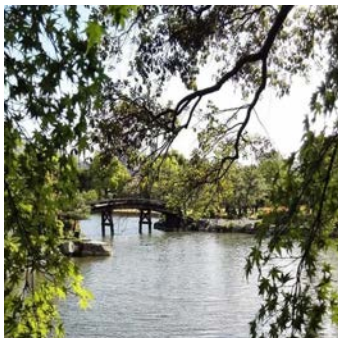
主人公の井上輝紀と村上早紀の年齢を近い設定にして、お互いの心情をより理解できるようにしたところです。小説の中では二人の実際の年齢の記述はしていません。

○最後に、皆さんに向けて作品の魅力PRをどうぞ！

二人の若者の心の交流を通して「Murmur Coffee Kyoto」と「渉成園」の魅力をほんわりとしたタッチで描いています。皆さんも、是非一度「Murmur Coffee Kyoto」そして「渉成園」に足を運んで小説の世界を感じていただければ嬉しく思います。

“Murmur”とはどういう意味なのか…

それは、物語を読んでいただくとその意味に触れることができます。ぜひ読んでみてください！



行事予定のお知らせ

(仮称) 写真展 南米パラグアイの暮らし

日時： 2023年9月17日(日)～18日(月・祝) 12:00-18:00

場所： 堀川出水団地3棟1階 317

(京都市上京区 市バス9、12、50「堀川下長者町」下車すぐ)

内容： JICA海外協力隊がパラグアイの人たちと活動をともにする中で撮影した人々や自然、街並みの写真を展示します。パラグアイでの暮らしに欠かせないマテ茶の試飲、現地とのオンライントークも予定しています。

KOCA会員登録のご案内

KOCAは、京都府にゆかりのあるJICA国際協力ボランティア事業への参加経験者を中心とした団体で、国際協力活動で得た貴重な体験を生かして、異文化理解の促進、地域の国際化と国際理解のために活動をしており、その財源は、主に会員の年会費で成り立っています。

京都のまちが元気になるような、国際交流イベント企画に関わったり参加する正会員と、資金的にサポートする賛助会員の2つのタイプがあります(もちろん、事業への参加も大歓迎です♪)。会員のみなさまには、KOCAニュースを通じて活動の様子を届けます。どうぞ、私たちの仲間になってください。

会員登録の際、メール件名に「KOCA登録申込」、本文に①氏名、②住所、③電話番号、④正会員または賛助会員の選択、⑤年会費納入日、(協力隊隊員経験者のみ⑥ 隊次、派遣国、職種)を記して、office@koca.or.jpまで送ってください。

■銀行口座

- 振込先：京都銀行 本店営業部
 - 加入者名：特定非営利活動法人 京都海外協力協会
普通貯金 店番 101 口座番号 3990781
- なお、手数料は各自でご負担下さいますようお願いいたします。

■郵便預金口座

- 振込先：記号 14410 番号 26623371
- 加入者名：特定非営利活動法人 京都海外協力協会

■お振込み方法

郵便局で備え付けの「郵便振替電信振込依頼書」に必要事項をご記入の上、会費と料金(手数料)を添えて、窓口に提出して下さい。一般振替口座、またはゆうちょ銀行通帳をお持ちの方はATMからも送金していただけます。詳しくは郵便局でお尋ね下さい。なお、手数料は各自でご負担下さいますようお願いいたします。

正会員	個人	3,000円/1口
正会員	団体	30,000円/1口
賛助会員	任意団体	5,000円/1口
賛助会員	法人	10,000円/1口

発行 NPO法人京都海外協力協会

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1

ひと・まち交流館 京都 PO.BOX No.27

メール office@koca.or.jp

KOCA行事の案内等を得られる「KOCAネット」登録希望の方は、名前とメールアドレスを上記メールへ送ってください。

HP



Facebook



Instagram も見てね!

